

## 2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月24日作成)

小委員会名	環境振動測定分析小委員会		主 査 名：森川和彦 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)		委員長名：大岡龍三 主 査 名：富田隆太
設 置 期 間	2023年4月 ～ 2025年3月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	『建築物の振動に関する居住性能評価規準・同解説』や『居住性能確保のための環境振動設計の手引き』に対する測定・分析方法や留意点、その他多くの環境振動測定事例を収集し、測定分析方法の体系化を目指す。その成果は広く会員に展開し、居住性の向上に寄与することを本小委員会の設置目的とする。  初年度：環境振動設計検討小委員会と合同で環境振動計測を立案・実行する 2年度：測定方法や分析方法、新しい知見の反映方法等について検討する		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無		
	主査：森川和彦(清水建設) 幹事：田中彩(鹿島建設)、松田貫(BL) 委員：足立大(リオン)、石田理永(石田振動環境研究室)、神谷敏行(ベネック振動音響研究所)、久保和康(特許機器)、小谷朋央貴(フジタ)、佐野泰之(愛知工業大学)、清水克将(鉄道総合技術研究所) 尻無濱昭三(鉄建建設)、原田浩之(三井住友建設)、平松和嗣(フリーランス)、平光厚雄(建築研究所)、横島潤紀(神奈川県環境科学センター)		
設置WG (WG名：目的)			
2023年度予算	50,000円	ホームページ公開の有無：有 委員会HPアドレス： <a href="http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html">http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html</a>	

項 目	自己評価
委員会開催数	5回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 計画していた回数(年度内計画を含む)の小委員会を開催できた。 2. 環境振動計測の計画を立案し、実行(年度内計画を含む)できた。
委員会活動の問題点・課題	1. 計測データが大容量である場合、学会の委員会オンラインストレージでの保守・管理は難しい。

\*中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価  
(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	①            B            C            D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	・計画していた回数（年度内計画を含む）の小委員会を開催できた。 ・環境振動計測の計画を立案し、実行（年度内計画を含む）できた。 内部振動源の計測は実施済、計測結果速報を小委員会内で共有済。 外部振動源の計測は計画立案中、計測予定日は2月。

- 総合評価は4段階（A>B>C>D）にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
  - C評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
  - D評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的评价・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。
- 提出対象年：設置期間4年の場合は、2年目「中間年度評価」、4年目「最終年度評価」（1年目・3年目不要）  
設置期間3年の場合は、2年目「中間年度評価」、3年目「最終年度評価」（1年目不要）  
設置期間2年の場合は、1年目「中間年度評価」、2年目「最終年度評価」  
設置期間1年の場合は、1年目「最終年度評価」